

県立君津高等学校

目 標

- ・ 生徒の留学等への興味・関心を高める
- ・ 異文化体験を身近に感じ、国際社会に積極的に貢献しようとする態度を育成する。
- ・ 国際理解教育を推進するための学校の内外の体制を構築する。

留学生等との交流会の開催

- (1) 日 時：平成31年1月17日（木）14時30分から16時30分
- (2) 会 場：本校第1会議室及び第1・2学年13教室
- (3) 留学生等：敬愛大学の留学生等13名
- (4) 参加者：第1学年生徒243名、第2学年生徒284名、教員35名、 計 562名
- (5) 内 容：留学生講話・交流

1・2学年各クラスに留学生が1人ずつ入り、自国の文化や、留学の経緯、日本で学んでいること、自国と日本の違い等について紹介してもらった。その後、生徒との質疑応答を中心とした交流を行った。途中で、留学生が担当クラスを交換し、同様の交流会を実施した。（各クラス2カ国の留学生と交流できるように配慮した。



- (6) 事前学習：
来校予定の留学生の出身の国・地域について調べ、質問を考えておく等の取組を行った。
- (7) 事後指導：アンケート実施、感想文
- (8) 参加者の感想等
 - ・ 母国は違っても、コミュニケーションをとることによって仲良くなれた。改めて人と人との関わりの大切さを知り、考えさせられた。
 - ・ 他国の文化や価値観など、よく知ることができた。違いや共通点、また共通する問題点なども見つけることができた。

海外理解促進のための講演会

- (1) 日 時：平成30年7月19日（木） 9時から10時
- (2) 会 場：本校体育館
- (3) 講 師：氏名 広瀬 勝弘 氏
所属 JICA（国際協力推進員）
経歴 大学卒業後、企業に勤務しつつ、環境系 NGO で活動。青年海外協力隊員として、中東・ヨルダンで公立学校の子どもたちへの環境教育に尽力。パレスチナ難民キャンプでも、活動。帰国後は JICA 国際協力推進員として、国内事業に携わる。平成30年8月から JICA エジプト事務所へ赴任。

(4) 参加者：全校生徒815名、教員52名、 計 867名

(5) 内容：

経歴の紹介、青年海外協力隊員として、中東で環境教育に携わった経験や、イスラム圏での生活の様子を映像を交えて伝えていただき、発展途上国の現状や抱えている課題についてわかりやすくお話しいただいた。

講演後、質疑応答を行った。生徒からは海外生活についてや語学習得について等、多くの質問があり、丁寧にお答えいただいた。アラビア語への生徒の関心も高かった。



(6) 事前学習：

地歴・公民科、英語科の授業で、世界情勢について学ぶと共に、国際貢献について考察した。

(7) 事後指導：アンケート実施、感想文

(8) 参加者の感想等：

- ・世界は国によって、それぞれ持っている問題が違うし、経済力も変わるということがわかった。国際協力がどれほど大切なものなのかを知った。
- ・実際に現地へ行った人の話は、TV等で語られない人々の人情やその国の良いところをたくさん知ることができた。

事業の成果

- ・ 講師や留学生の体験や、貢献の経験等を聞くことにより、海外への興味・関心や留学に対する関心が高まった。
- ・ 国際貢献や環境問題をテーマに設定することで、現在の国際情勢について学び、国際社会に主体的に参画していく意欲と態度を促進することができた。
- ・ 国際交流を通じて、語学力の必要性、異文化理解の重要性、自国の文化理解の大切さに気づかせることができた。
- ・ コミュニケーションの重要性を実感し、話す力、聞く力の大切さを認識させることができた。
- ・ 本事業を実施するに当たり、校内で組織的に対応することで、上記事業の他にも、海外からの修学旅行生受け入れにも対応することができた。また、参加対象生徒の範囲を広げることで、生徒の意識が高まっただけでなく、多くの職員が係わるることができたことは良かった。

今後考えられる新たな取組

- ・ 地域の国際交流協会との連携による交流活動の推進
- ・ 提携大学での、留学生との交流の促進